岐阜県飛騨市　地域学校協働活動通信

人が育つ　地域づくりの未来像

子どもの学び、地域住民の生きがいづくりを行う地域学校協働活動推進員の活動を紹介する通信

4

202406

小さな町だからできることがあるはず　～世代間の壁がない宮川を未来へ～

4

山小瀬 仁志　地域学校協働活動推進員(宮川小学校区)

飛騨市宮川町出身。専門学校を出た後、消防士として地元に就職した。

宮川町出身の山小瀬 仁志さんは一度は町外に出たものの、就職のタイミングで帰郷。今後は大人と子どもの関わりを増やしていくことで「宮川の町の姿を守りたい」と話す山小瀬さんに、地域の魅力、今後の活動などについて伺いました。

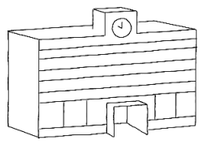
多感な子どもたちが地域と密に関わるメリットとは？

―推進員になったきっかけを教えてください。

地域学校協働活動推進員の発足当時から「推進員じゃないけど来てよー」と呼ばれたことがきっかけです。推進員になるときも、最初は充て職でした(笑)しかし、推進員として子どもと触れ合う機会を持つことは意義があると思っています。宮川の大人と子どもたちが関わりを持てるということは、生きていく場所としての選択肢を広げる価値のある活動です。

―推進員としてどのような活動をされていますか？

推進員としての足場が固まったのは、ここ3年くらいです。僕は推進員の学校支援部として、学校に紹介したり、イベントに出たりするようにしています。そのときに、この人面白そうだなと思ってもらえるように心がけています。



―やりがいや、やっていてよかったと感じたエピソードについて教えてください。

学校運営協議会の一員として学校と接点を持てるのは、自分の将来のことを考えたらすごくメリットになるなと思います。学校に関わらなかったら、学校に関して何も知らないし、周囲に興味も湧かないままじゃないですか。あとは自我が確立するくらいの年齢で、人が少ないまちにいるというのはいいことだなと思います。団体スポーツができないなどのデメリットはありますが、人が少ない地域だと単純に自分が埋もれないじゃないですか。多感な時期に濃厚な人とのかかわりがあるっていうのも良いかなと。自分は人が少ないことを良いと感じる経験がたくさんありました。

コロナ禍前には毎年町内で実施されていた「宮川マラソン大会」に変わる形で、昨年度（※）は地元のシニアクラブや学校運営協議会の方々の協力を得て、学校行事としてマラソン大会が実施された。

「人のつながりを大切にする」町の姿を後世に。目指す組織一元化

―これからやっていきたいことはありますか？

国や市も同じ課題意識を持っているとは思うのですが、組織の一元化を行いたいと思っています。難しいことだとは思いますが、そのポテンシャルがあるのが推進員だと思っています。スポーツ推進員や地域ボランティア、シニアみたいに必要な組織は全部そろっているんです。でも、それぞれの会議に同じ人が集まることが多いので、効率化したいなと。あとは、地域と学校のつながりをもっと深めたいなと思っています。ほかの地域に比べたら、宮川は規模が小さい分、学校のイベントには地域ぐるみでやろうという風潮があります。それを継承していきたい気持ちがあります。

※こちらの内容は公開時点（2023年2月20日）の情報を一部修正しています

全文はこちら↓

「大人も子どもも学び育つ」をテーマに

教育課題解決のため地域教育力を活かし学びを推進する学校支援
地域で子どもを育て地域未来の創造する地域活動に
役割を分担し活動中！

地域学校協働本部

学校運営協議会

学校支援

推進員
◎平澤百合
松永さやか・澤之向啓子
秋田梨絵・沖畑康子
岡本　文・教務主任

地域活動

推進員
◎後藤聖士
山小瀬仁志・平澤百合
立田佳美・岩田笑未子
水上雅廣・教頭

協力依頼

文化協会　漁業組合　地域ボランティア　行政　地域のおじさんおばさん　シニアクラブ

活動内容

★ふるさと学習支援（マルシェ）
★クラブ活動支援
★行事支援

活動内容

★わくわく探検隊
子どもたち自身の五感を使った様々な体験を！

★運動会参加！
→ 子どもたちからの“一緒に種目決めを！”に応える！

今年は…

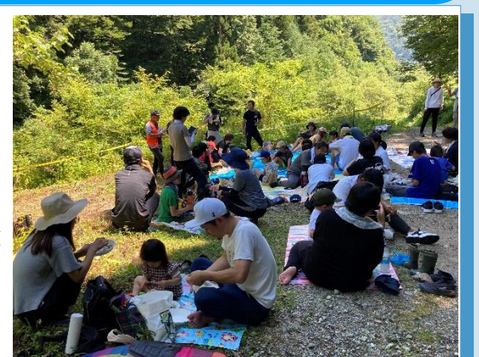
★わくわく探検隊のブラッシュアップ！
→ 防災キャンプとして、体育館宿泊や、防災食試食、各家庭の避難袋確認など…　防災意識を高める！

★放課後活動、開始！
→ 早帰りの日に色々な体験活動を

昨年の様子

〈自然を体験できる企画の実施〉

・自然の川でマス釣り体験
・地元産の野菜や山菜で昼食づくり



地域学校協働活動、飛騨市学園構想の最新情報はこちらから！（Facebook）